

日照不足及び降雨に係る農作物の技術対策

令和3年(2021年)5月18日
農 業 振 興 課

I 水稻

1 分けつ抑制回避

日照不足や深水による分けつ抑制・茎の徒長を防ぐために、降雨があっても浅水状態となるように、排水口の調整を頻繁に行う。

2 除草剤効果確保対策

除草剤の処理時期(雑草葉齢)に注意するとともに、気象予報を考慮し、除草剤散布後の田面水がオーバーフローしないようにする。

3 病虫害防除

長雨日照不足が続く場合には、いもち病が発生しやすくなるので注意する。
補植用の置き苗はいもち病の発生源になるため、補植後は直ちに処分すること。

II 麦

1 収穫用コンバインの手配

収穫作業は短期間に集中することから、乾燥調整施設及びコンバインの手配等、事前に収穫作業体制を整備しておく。

2 品質・収量の確保

(1) 成熟期を迎えたほ場から、できるだけ降雨に遭わせないように、収穫作業を開始する。

※成熟期… … 穂を手でもむと、外花穎がほぼ完全に除去でき、穂首が黄化し穂軸からほぼ緑色が抜けた時期。(コンバイン収穫はその3日後が適期)

(2) 穀粒水分28%以下での収穫が望ましいが、高水分での収穫となった場合には、刈取後4時間以内に通風乾燥を開始する。

III 大豆

1 事前排水対策

降雨後の速やかな排水を可能とするため、額縁明きよやほ場内に排水溝を設置し、播種作業ができるだけ計画通りに実施できるように準備しておく。

2 発芽苗立ちの確保

(1) m²当たり苗立ち数が15本以上確保できるように確実に播種を行う。特に、播種機の設定調整(深度、覆土)に注意するとともに、実際の播種量を確認し、繰り出し量の調整を入念に行う。

(2) 播種後に冠水すると出芽が著しく劣るので、播種直後に畦間の排水溝を連結し、降雨が滞水せずに排水できるようにする。特に、長辺が長いほ場では、中央部を横断するような溝を設置し、額縁明きよに連結する。

3 雑草防除対策

土壌の水分状態が高いと大豆の出芽が早まるので、播種直後の除草剤処理を基本として、時期を遅れないようにする。

IV 野菜

1 根群の生育回復

- (1) ほ場の周囲に明きよを掘って速やかなほ場内の排水に努める。
- (2) 畦間に滞水してポリマルチをした畦内が過湿状態の場合には、マルチをめくって土壌を乾かし、土壌内の通気性を高める。
- (3) 根が洗われて露出したり、株元がぐらつくものは軽く土寄せを行う。
- (4) 雨でたたかれて固くしまった苗床やほ場では、ある程度乾いてから軽く中耕を行う。
- (5) 一時的な水分過多により根が地表面に多くなると、水害後の高温、乾燥害を受けやすくなるので、土壌が適湿になり次第、通路の土を根元に寄せて敷きワラを行う。
- (6) 土砂が流入し株元が埋まった場合には、土砂を除去したり、流入堆積した表土が乾いて固くならないうちに中耕して通気を良くし、乾燥を促すようにする。

2 地上部の生育回復

- (1) 葉や茎に泥が付着している場合は同化作用を阻害するので、病害防除を兼ねて、できるだけ早めに登録のある殺菌剤を散布し、泥を洗い落とす。特に、イチゴやダイコン等の幼植物は芯部の泥を丁寧に洗い流すようにする。
- (2) 果菜類の場合は、特に開花成熟期に入ったものは被害が大きい。草勢の衰弱した株では、果実の若どりや摘果（花）を行い、草勢の回復を図る。過繁茂した茎葉は間引くとともに、下葉や病葉を除去して通風をよくする。
- (3) 根が衰弱し養分吸収機能が低下し、肥切れ状態や微量元素欠乏を起しやすいため草勢の回復を図るため、必要に応じて尿素（0.5%液）や葉面散布剤を葉面散布する。
トマトのように石灰欠乏（尻腐れ）を起しやすいいものでは、塩化カルシウムの200倍液を各花房の開花時に散布する。また、ナス、トマトなどで発生しやすい苦土欠乏症には、硫酸マグネシウムの60～100倍液の定期的な葉面散布と硫酸マグネシウムを10a当たり20～30kg土壌施用して防止に努める。
- (4) 病害の多発が予想されるので、早期防除に努める。施設野菜では、ハウス内が過湿にならないよう換気に努める。

3 作付けのやり直し

強度の浸冠水により立ち直りが期待できない場合には、できるだけ早く蒔き直しを行うか、他の作目に作付け転換することも必要である。

これらの場合、適応作目及び品種の選択と生育促進のための管理技術を適切に行うことが大切である。なお、品種選択に当たっては適地性と市場動向を十分考慮する必要がある。

V 花き

1 排水対策

- (1) 露地花きでは、畦間に滞水しないように明きよの溝上げを徹底し、速やかにほ場外に排水できるようにする。
- (2) 施設花きでは、ハウス内に浸水しないようにハウス周囲に明きよを設置する。

2 病害対策

- (1) 降雨が続くとキクでは黒斑病、ユリ類・リンドウでは葉枯病が発生しやすくなるので、雨上がりには防除を徹底する。降雨が続き、病害が蔓延を始めるようであれば、雨の止み間に防除を行う（雨間、雨中散布）。
- (2) 施設栽培では灰色かび病などの発生が多くなるので防除を徹底する。ハウス内が過湿にならないよう、換気に努める。

3 湿度低下対策

- (1) 施設花きでは、湿度が高くなると、病害の発生、軟弱な生育が多くなるので換気の徹底や循環扇、加温機を利用して湿度低下に務める。また、天候に応じて灌水を調整する。
- (2) 不要な枝梢や下葉を取り除き、通風を図る。

VI 果樹

1 排水対策

長雨による酸素不足で、根痛みが懸念されることから、排水溝により雨水を効率よく園外に排出する等、排水対策を徹底する。
特に幼木では、梅雨明け後の急激な乾燥にも対応できるよう、根痛みを起こさないように注意する。

2 新梢管理による日照改善

日照不足による果実肥大不良、品質低下が懸念されるため、新梢の誘引やシルバーマルチ等による樹冠内の日照改善を図る。

3 適正結果量の確保

果実肥大不良や生理落果が懸念されるので、落果等の推移を見ながら、適正結果量の確保に努める。

4 病虫害防除

カンキツの黒点病、ナシの黒斑病、ブドウの黒痘病等、病虫害防除を適確に行う。

5 生理障害への対応

ナシの水浸状果や、受粉樹の花芽着生不良、ブドウの縮果病等の生理障害の発生が懸念されるので、適確な対応が出来るよう注意する。

6 水害への対応

- (1) 浸水園では早めに排水に努めるとともに、堆積土のある場合は早期に除去する。
- (2) 根が露出している場合は早急に覆土する。
- (3) 樹体に付着した泥は速やかに洗い落とす。